



「友だち」(水彩)

今野美幸

滝川市立開西中学校

北海道教育美術展奨励賞作品

評

いきいきとした活力のあるよい絵です。細かい観察と落ち着いた色調がより画面をひきひめています。

目次	平成2年度委員総会終わる……………2	サークル紹介・渡島……………5
	今、造形教育の新しい流れが苫小牧から…3	北海道教育美術展……………6
	高等学校美術・工芸教育の現状……………4	平成2年度事業日程・原点……………7



北海道 造形教育 連盟報

No.85 1990.6.20発行

発行 北海道造形教育連盟

事務所 〒064 札幌市中央区宮の森4条11丁目4の1
札幌市立三角山小学校 ☎643-1133

平成2年度 委員総会終わる

新役員に、田邊康夫先生(副委員長)・庄 栄一先生(副委員長)・稲船正男先生(監査)

去る5月29日(みどりの日)に札幌で、委員総会が開催され、本部事務局より提出された議題の全てを承認した後、退職された先生方に代わって新しい役員が選出された。

委員長	金井秀男先生	再選	(札幌市桑園小長)	監査	出村 保先生	再選	(遠別町遠別中長)
副委員長	寺本吉明先生	〳	(清水町人舞小長)	〳	稲船正男先生	新	(釧路市美原中頭)
〳	川上 宏先生	〳	(苫小牧市開成中長)	事務局長	佐々木理温先生	再選	(札幌市三角山小長)
〳	田邊康夫先生	新	(函館市大川中長)				
〳	庄 栄一先生	〳	(月形町知来乙小長)				

連盟40年の歳月に深い敬意を



北海道造形教育連盟事務局長

佐々木 理 温

(札幌三角山小学校長)

●教育大のあいの里移転に伴い、長い連盟と馴れ親んだ北師会館が昨年姿を消してしまいました。北師会館にかわる地区委員総会の会場が、苦労の末市内の真只中すすきのに程近い場所となって、毎年2階の窓から何分咲きかの桜を眺めながら造形教育論議に花を咲かせた北師会館が、ことの他なつかしく思われました。総会開始時刻も長い慣例の午前10時から初めて午後1時となり、昼食のカレーライスともお別れしました。昨年度からの29日(みどりの日)への期日変更といい、時たまたま連盟結成40周年に当る中で、何か大きな時の変り目を痛切に感ぜずにはおられません。

●さて、この度の新学習指導要領に対応し、連盟の研究主題も昨年度から、子どもの生活を見つめ直し一人ひとりの子どもの個性を生かした造形教育を内容とした「子どもの個性的表現を援ける造形教育」の表現になりました。新指導要領は平成4年度小学校、5年度中学校の全面実施となり、これからの移行期2・3年間は、内容理解の正念場となります。連盟としても今後の実践課題を明確にとらえ、日常実践や全道大会での研究の積み上げに成果があがるよう努力をしていきたいと思っております。

●移行のこの時期、関連の全道大会は昨年度帯広・十勝大会が「サンキュー大会(第39回)」として大成功裡に終了しました。

本年度は第40回という節目の記念大会が、7月31日8月1日と珍らしく2つの月にまたがる期日で、「広がり深まり、そして感動を！」を大会主題に、紙の町苫小牧において開催されます。地域素材をもとにした「紙フェスティバル」を軸に、多彩な内容で苫小牧市総合体育館と苫小牧市立若草小学校を会場として展開されます。苫小牧造形教育研究会を中心のご苦労に報いるためにも、全道各地からのご参会を心から願っています。

また来年度(平成3年度)は、第41回大会札幌大会として大会主題「子どものつくる喜びをひろく」で、準備が開始されました。大倉山シャンツェを背景にした札幌市立三角山小学校を会場に、平成3年7月28・29両日の期日も決定いたしました。

再来年度(平成4年度)の第42回大会も、本年度総会席上函館市美術教育研究会にお願いし、函館地区開催を快く引き受けていただいております。

●昭和25年本連盟が結成され、爾来40年が経過しました。一口に40年とはいっても長い歳月、その間たくさんの波風もあったであろうことは想像に難くないところです。しかし、幼保・小・中・高・大の組織的大同団結、一貫して子どもを主人公にすえ子どもの作品を目の前にして語り合う実践研究の姿勢、札幌大会2回旭川大会1回の全国大会を含む40回にも及ぶ全道大会開催の実績等の輝かしい足跡に、諸先輩や全道各地区サークルの造形教育人としての固い信念と絆、そして深い愛情を読みとることが出来ます。あとに続くものとして、このよき伝統を受け継ぎつつ、また新たな出発を誓い合いたいと思います。

今、造形教育の新しい 流れが苫小牧から

第40回全道造形教育研究大会

苫小牧大会

大会研究部長 佐藤公毅

「広がり、深まり、そして感動を！」をテーマに7月31日(火)開会式、基調報告(移動)紙フェスティバル(移動)分科会、歓迎レセプション、8月1日(水)分科会、記念講演、閉会式の日程で苫小牧大会は開催されます。

次の世代を担う郷土の子どもたちに創作の喜びと感動を与え、心の豊かさを育むと共に人々が交流を深め、明るく活力のあるまちづくりをすすめるために、紙の街にふさわしいイベントとして「紙フェスティバル」が誕生した。このユニークな紙一色の催しは「地元で生産されたばかりの巨大な紙で子どもたちの夢の表現を」との一市民の提案がきっかけだった。

今年の紙フェスティバルには苫小牧の子ども、市民だけでなく全道各地の造形教育に携わる先生方の参加で今まで以上に盛上るであろう。会場の総合体育館は紙の造形物で埋まる。ペーパーフラワー、紙のレリーフ、モビール、ちょうちん、ダンボールプレイの城、工場、迷路、遊園地、立体構成など。くす玉が割られ紙吹雪が舞う。気球がそろそろと上昇。紙飛行機・ロケットが飛ぶ。ステージではファッションショーが始まる。みこしが練り出しまと、のぼりが後に続く。ジャンボ紙人形のショーも始まった。体の何倍もある巨大紙の折り紙に挑戦。紙すき、紙トンボ、紙ぞめ、うちわ、風車、袋づくり、お面づくりなどのコーナー(出店)でお客の子どもが作品づくりをする。紙スキージャンプ大会、カーレース、紙ずもうに苦心作で競い合う。紙とのふれ合いを通して「創ろう・遊ぼう・楽しもう」という紙フェスティバルは市民、企業、各種団体による地域の一つの文化運動の芽生である。

我々、苫小牧造形教育研究会は「広がり」と「深まり」の造形教育、をテーマ研修・実践を重ねて来た。地域のこの行事をその成果の発表の場と考え「感動」をみんなのものとした。この紙フェスティバルに造形の仲間、

子どもたちがどのように関わったか。計画し、活動し、発表したかを全道の先生方にみていただきたい。

このように苫小牧大会は紙フェスティバルが中心となります。従来の公開授業は学校行事等の造形活動を紙フェスティバルのプロの中で再演したり、会場で製作する様子を見ていただくということになります。

分科会の提言については「地域や学校行事と結びつく造形活動」について、幼稚園・小学校(2)、中学校(2)高校の分科会が設けられる。紙フェスティバル等についての地元提言と全道各地のこれらの行事と造形活動の実践例を提言願うこととなります。もう一つの分科会「新しい視点での造形活動」というテーマで、21世紀へ向けての授業観、教材づくり、素材さがしなど道連盟から問題提起されたことについて小学校、中学校の分科会で地元と全道からの提言をいただき話し合いを深めたいと思います。

このことは苫小牧造形教育研究会の研修テーマである広がり(発展性、社会性の部分)と深まり(基礎・基本的な個人に関わる部分)の造形教育の二面性に他ならないと考えます。さらに深まりの部分については苫小牧の日常実践の記録として作品展を行ないます。

実技研修は紙フェスティバルのコーナー(出店)での作品づくりで体験してもらうこととなりますが、さらに参加される先生方にコーナーを出店していただけると苫小牧の子ども、市民は大喜びです。

講演は彫刻家、美術評論家、ポップアーティスト、ハプニスト等々たくさんの方の肩書を持った秋山祐徳太子氏を予定しています。これからの造形教育について多くの示唆を与えていただけるものと思う。

第30回苫小牧大会から10年、記念すべき区切りの第40回大会。苫小牧の先生方は地元から造形教育の新しい方向を全道へ向けて示すのだという意気込みで準備して来ました。多くの先生方の参加をお待ちしております。苫小牧の真夏は一週間しかありません。その真直中、紙の祭りに集い、お楽しみください。

追伸 苫小牧造形教育の指導者の一人である池本良三先生は今春、退職されましたが、紙フェスティバル実行委員会の事務局長として、今後も全市の立場で御指導いただけることになっております。先生のイベント屋としての御活躍を期待しているところです。

第40回・苫小牧大会
平成2年7月31日(火)～8月1日(水)

高等学校美術・工芸教育の現状 (研究会も含めて)



北海道札幌北高等学校

土岐 禎次

国際社会・情報化社会の言葉がよく聞かれる昨今、私達は21世紀を目指し、国際社会に生きる日本人として、物質面で表面的にはやや恵まれているものの、心の豊かさということになると誰もが首をたてに振られるような現状ではないと思う。学校教育においても激化する受験戦争に拍車をかける偏差値による知育偏重教育を憂い、もっと人間としての在り方、生き方にかかわる教育に視点を向けるべきであると声も次第に強くなってきている。

さて高等学校での美術教育は、教育課程でも小中学校のそれと異なるわけではなく、基本的に科目は国語・社会・数学・理科・芸術・体育……に大きく分かれている。また高校の芸術教科は4科目に分れ、各科目の標準単位数を2単位とし「音楽Ⅰ」「美術Ⅰ」「工芸Ⅰ」及び「書道Ⅰ」のうちから1科目をすべての生徒に履修させ、履修させる単位数は3単位を下らないとしている。実施にあたり美術Ⅰ・工芸Ⅰとも表現活動と鑑賞活動の2領域のいずれにも偏ることなく、幅広い経験を得させることがねらいで、Ⅱ、Ⅲは「Ⅰ」の学習の上で立って内容を質的に高めながら、表現能力を豊かで確かなものにすることが望まれている。なお履修状況に関しては全道の全日制普通科高校206校中3単位で修了する学校は年々減っており、2科目4単位の履修が定着している。しかし小規模校では教員定数や地域に講師がないことから1科目の開設が多い。特に工芸は開設している学校も都市部だけで、その数も極めて少なく、美術Ⅰの開設校が135校(65.5%)に比べ7校(3.4%)という現状は、中学校美術の中で工芸を学んできた生徒が高校で履修できない状態にあり、これを解消するためにも工芸的なニュアンスの教材に対しての生徒の反応を分析するなど多方向から開設のために力をつくしてゆく必要があると思う。

現在美術部が関係している全道的な研究会・大会・展覧会等について上げると、

・「高等学校教育課程研究集会」の美術・工芸分科会では、高等学校教育課程編成実施の手引きをもとに美術・工芸教育の在り方を研鑽する数少ない公的な研究会の一つである。すぐれた研究発表や各自が持ち寄った年間指導計画表、生徒作品、具体的な実践例を通して、指導計画の作成・効果的な指導法、評価、今後の課題など広範囲にわたり、きたなく話し合える集会だけに、美術・工芸教育の根幹をなす貴重な研究会となっている。

・「高等学校教育研究会」 例年1月初旬、2日間にわたって開催されるこの会は、初日に各教科共通で講演を聴き2日目には科日別に別かれて午前中は主として研究発表、午後は教科全体での講演会を持っている。今年は東京から彫刻家で本道出身の佐藤忠良先生をお招きしたが、芸術教育はまさに人間教育の心髄をなすものとして大切にしなければならないことをご自分の作品制作過程の体験を通して話され、全聴講者に深い感銘をあたえて下さった。

・「高等学校文化連盟・全道美術展大会」 高文連は全道13地区に分れているが、昨年も北見で全道各地区から選ばれた作品423点の展示、約200校、900人の参加で開催された。例年この大会では出品作品の鑑賞・開催地附近でバスを使つてのスケッチ会の他交流会、その地域の特色を生かしたイベント等が持たれ、クラブ員が楽しみにしている大会でもある。一昨年の苫小牧大会では支笏湖でのスケッチと紙漉き実習、この紙漉き実習では参加生徒も熱心だったが、それ以上に引卒業顧問の関心が高かったようだった。昨年は網走監獄博物館他でのスケッチと能取岬でのピックアート。参加生徒全員に大版の色画用紙が渡され、オホーツク海をバックに能取岬をキャンパスとした大画面にグループ毎に地上に雄大な人間図形が描かれ、飛行機が飛来して航空写真が撮られる。写真はその折の作品として全員に送付された……等々である。

・その他 本連盟でお世話を頂いている造形教育研究大会・NHK後援の高等学校放送視聴覚研究集会、そして本年全国高等学校美術・工芸教育研究会の北海道支部が発足し、全国の研究グループとの交流を深めた活動を開始しようとしている。最後に本稿を書くにあたり、札幌東陵高校の貝沼先生より資料のご提協を頂き感謝申し上げる次第である。

渡島の造形教育

亀田郡恵山町立古武井小学校

近堂 俊行

(渡島美術教育研究会事務局長)

渡島は、函館市を中心に、北へ大野・七飯・森・八雲・長万部、西へ上磯・木古内・知内・福島・松前、東へ戸井・恵山・樞法華、噴火湾沿岸に南茅部・鹿部砂原の16町村からなる距離的に広い地域です。

言葉、方言にもみられるように、渡島は、古くから東北地方との交流が深く、また、気候も温暖で北海道の内地と言われてきました。

渡島は、先発後進地域といわれるように、閉鎖的で、確かに進取性には欠けますが、それぞれの地域では、古い歴史や伝統が根づいた、文化をもち、それが教育の基盤ともなっております。美術教育の面でもこれらを反映し、地域に根ざした個性的な実践を数多く残しております。

これら、16の町村には、教育研究所があり、それぞれ図工美術サークルを組織し独自の活動を進めております。

渡島美術教育研究会は、町村のサークルと連携し管内的な規模での、いくつかの事業をすすめております。組織的には、16の研究所サークルから参加するかたちになっており、小・中学校あわせて常時、45から50名が会員になっております。

渡島管内広い地域の活動ですので、いろいろな隘路もありますが、授業研究会。児童生徒作品展。教職員美術展。美術鑑賞会。技術講習会。などを実施しております。

きょうは、このなかからいくつかの実践をご紹介します。

まず、最大のイベントは、研究会です。これは、図工美術科だけでなく、渡島管内小・中学校全教科(9)一斉公開の『渡島教育研究集会』として実施されるのです。昨年は、七飯町を会場に開催されました。

図工美術もこの1部会として運営されました。

渡島教育研究集会は、渡島管内に組織されている20の研究会を束ねる、「渡島教育研究会連絡協議会」という組織が事務局となり、管内の町村、持ち回りで毎年研究会を開催しております。教科は、統一会場で、教科外部会は、単独に開催されています。この研究集会には、のべ、1,700名を超える参加者があり、管内の一大イベントにもなっています。

図工美術部会も、管内美術教師の80%以上が参加し活発な討議が行なわれます。部会の構成は、午前中が授業を中心とした活動で、これは、公開学級とその町村の研究所図工美術サークル員の研究がメインであり事前研究などを通し、サークルの活動が活発に行なわれます。

午後は、テーマと参加者の要求による課題が柱で、研究発表や持参した作品をもとに、活発な話し合いが行なわれます。研究発表や持参した作品(実践)は、町村の地域性を受け、ユニークなものが多く、作品を見るだけでも実践に役立つということで、他の部会の先生方も覗きにくるという、ほどの評判です。

昨年の研究発表の中からユニークなものをご紹介します。恵山町立尻岸内小学校の安達先生の『土器の野焼き』の実践です。恵山町には、縄文晩期の遺跡があり、特徴のある土器が出土し、それに恵山式の名がつけられているほど有名です。先生は、郷土史の学習とも関連され実践を進めています。事前の社会科学習から、成型、乾燥、そして、野焼きの一連の授業を収録したVTRは、圧巻でした。先生は、このほかにも、地域の素材を掘り起こし、図工科の実践にどんどんとり入れております。

次に、地域性という面から。20回続いた児童生徒美術展にふれます。これは、函館のデパートで開催していました。平面、立体含めて700点あまり、管内の70%からの出品がありましたが、作品を見ただけでこの町村か、だれの実践かわかる、というほど個性的なのです。そして、それをかたくなに守るのです。

先日、叙勲に輝いた、造形連盟の顧問でもあった、瀧村虎雄先生(元渡島美術教育研究会長)の言葉『和して同ぜず』が、渡島の美術教師に、ぴったりなのでしょうか、その地域の文化や伝統を守る。いい意味での封建制、それが、渡島美術教育研究会を支えるエネルギーになっていることは確かです。函館大会では、渡島で育ったそんな先生方の授業に参加したり研究発表が、また、聞けることでしょう。

北海道教育美術展

— 募集から展覧会まで —

道造形連盟のご用納めは、毎年正月に行われる「北海道教育美術展」である。

平成元年度の第16回展は平成2年1月11日から16日までの1週間、さっぽろ駅前東急百貨店で開催された。

出品した児童が父母同伴で見にくるのはもちろん、多くの人々が鑑賞に訪れる。特に、中日に行われる表彰式には全道各地から、大勢の出品児童と父母、指導者が来札する。遠方からカメラ持参で、今後の指導資料にしたいと訪れる指導者も多くなってきている。

当展覧会が開催されるまでには、半年前から準備が始められる。第16回展を中心に、その経過を紹介しよう。

- 1) ポスター・募集要項の印刷 6月
- 2) ポスター・募集要項・全道大会で配布 7月
- 3) ポスター・募集要項・各地区へ発送 9月
- 4) 絵の見方についての研修会 11月

審査員にあたる常任委員を集めて(6・70名)絵の見方・審査基準についての共通理解を図るために、絵や版画を並べて研修会を行う。

- 5) 作品受付・分類作業 12月

各地から審査会場に集まってくる作品を審査日まで地区・学年に分類する。1万5・6千点の作品を事業部員が中心になって行うが、2日間を費やす。

審査日にはさすがに、審査に入れるように地区別・学年別の出品点数に合わせて奨励賞・入選・準入選点数の算出をしておく。

第16回展出品総数

	出品点数	奨励賞	入選	準入選	受賞者数
幼稚園・保育園	2,678点	(17)点	(109)点	(79)点	(205)点
小学校					
1年	2,016	(14)	(82)	(67)	(163)
2年	1,719	(11)	(71)	(55)	(137)
3年	1,717	(12)	(71)	(54)	(137)
4年	1,999	(14)	(80)	(67)	(161)
5年	1,886	(12)	(76)	(65)	(153)
6年	1,900	(14)	(74)	(60)	(148)
中学校					
1年	244	(0)	(8)	(11)	(19)
2年	423	(2)	(16)	(11)	(29)
3年	213	(4)	(12)	(8)	(24)
合計	14,795	(100)	(599)	(477)	(1,176)

出品校(園)総数 (250校)
出品総数 14,795点

- 6) 審査会第1日目 12月26日

各地区(各学年)札幌低学年(幼・小1・小2)札幌高学年(小3～中3)・道南・道央・道東北の5つのグループに別かれて審査する。そのうち奨励賞の候補作品を各地区から持ち寄り、全員で審査をして、奨励賞を決定する。奨励賞の入選名簿作製。



あらよりされた作品

審査員全員による
奨励賞審査



- 7) 審査会第2日目 12月27日

午前中は奨励賞全作品の写真撮影と入選通知のハガキ書きを行い午後から奨励賞・入選作品を台紙に張る作業を行う。同時に奨励賞の賞状書きが行われる。

最後に展示準備として、たての作品、横の作品を数えて記録後梱包する。

- 8) 展示作業 1月10日

東急百貨展11階特設会場で展示作業を常任委員全員で行う。

- 9) 展覧会開期中当番

輪番制で午前と午後に分かれて当番。写真の申し込み受けや作品説明等の仕事にあたる。

- 10) 表彰式 1月13日

主催者、道新・連盟、後援者、サクラ・東急等の関係者参列のもとに表彰授与。奨励賞授賞者100名

- 11) 搬出作業 1月16日

- 12) 奨励賞申し込み写真焼増し・発送。

- 13) 反省

平成2年度 事業日程決まる

先に行われた平成2年度の委員総会において、承認された各事業の日程が決定された。

第15回 全道小・中学生立体造形展

地区	展示期間 会場	表彰式	搬入
函館	10/18(木) ～10/23(火) 長崎屋	10/23(火) 16:30 長崎屋	10/17(火) 15:00～16:00 長崎屋
旭川	10/25(木) ～10/30(火) 丸井今井	10/30(火) 17:00 丸井今井	10/24(水) 13:00～15:00 丸井今井
室蘭	10/10(水) ～10/15(月) 桐屋デパート 文化教室	10/15(月) 15:00 桐屋デパート 文化教室	10/9(火) 14:00～15:30 桐屋デパート 文化教室
釧路	11/2(金) ～11/7(水) 釧路 ムーホール	11/7(水) 16:30 釧路 ムーホール	11/1(木) 15:00～17:00 釧路 ムーホール
札幌 兼全道展	11/14(水) ～11/19(月) ヨーク マツザカヤ	11/18(日) 10:30 京王 プラザホテル	11/5(水) ～11/9(金) 9:00～16:00 三角山小学校

第17回 北海道教育美術展

展示期間 平成3年1月10日(木)～15日(火)

展示会場 東急デパート 11階

応募締切 平成2年12月17日(日)

応募規定・絵画・版画・デザイン等の平面作品。

- ・学校または園を經由して応募する。
- ・大きさは、4つ切り。
- ・1人1点とする。

送り先 〒060 札幌市中央区宮の森4条11丁目4-1

札幌市立三角山小学校内

ⓧ……朱書き 北海道教育美術展係宛

審査 全作品を区別(札幌・道央・道南・道東北)

し、校種別、学年別に分けて審査する。

- ・奨励賞 100点
- ・入選 600点
- ・準入選 400点前後
- ・連盟常任委員で12月27日・28日の2日間で審査する。

・選発表 応募校にハガキで連絡するので、各家庭には学校から連絡するようお願いする。

・奨励賞のみ12月下旬、北海道新聞紙上に発表する。

表彰式 平成3年1月13日(日)午後1時より

札幌駅前さっぽろ東急百貨店10階

モナリザスクール、奨励賞授賞者のみ。

入選・準入選は後日学校へ名簿と共に表状を発送する。

原点

「手づくり」

伊藤 恵

いくら機械でも、最初は「手づくり」だった。

最近、物を作るのは大方機械で、その機械を作るのも機械で、そのまた機械も機械でつくる。

何でも手でつくった頃「手づくり」というコトバはなかった。

昭和11年平凡社「大辞典」にも、昭和36年岩波の「広辞苑」にも「手づくり」はない。

昭和62年小学館「言泉」になって、やっと「手づくり」が見える。

手元の辞典だけで決めるのはどうかと思うが、要するに「手づくり」というコトバは「手づくり」が

なくなってからの新語である。

昔の手づくりは、着物一つでもつくらないでは暮せなかった。そのかわり見てわかる方法であった。

親から子へ見よう見真似が伝わった。つくりながら上達した。家族へ誇れるほどに……。

今の手づくりは売り物が手本で、見ても作り方はわからない。習う、練習する(失敗したら買おう)と思いながら、仮りにできたとして、売り物に較べていつも惨めで、誇りたくても誇れない。

そのかわり名人の「手づくり」には高値がついた。

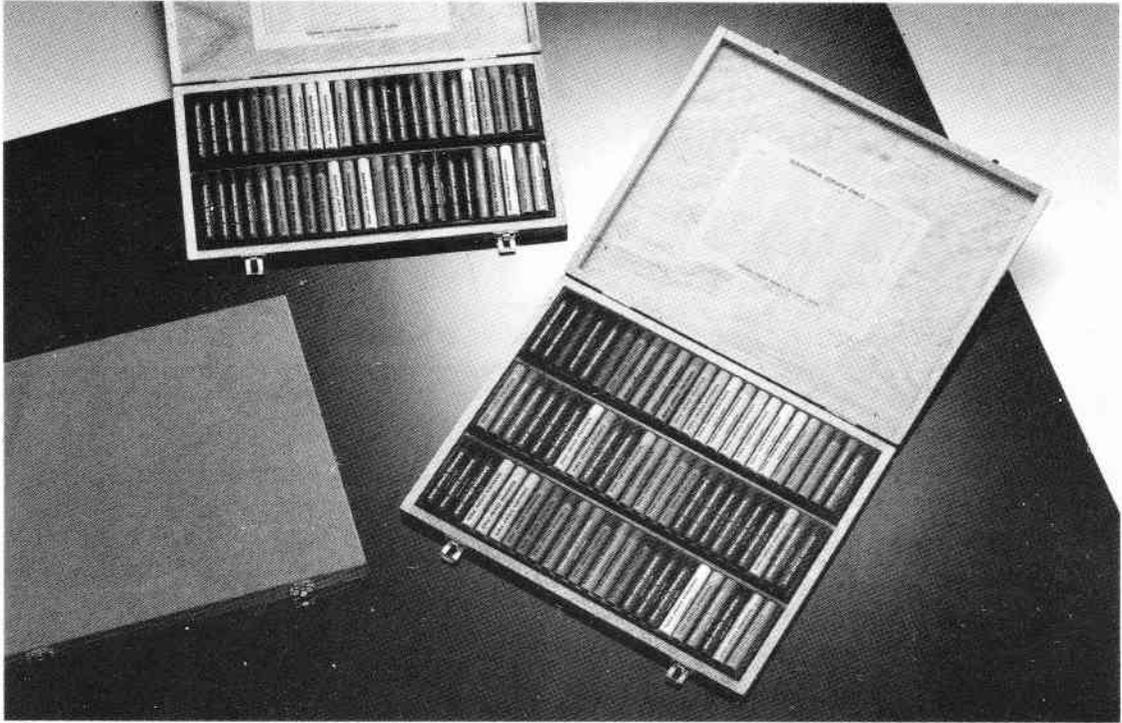
値がついて「手づくりブーム」は来た。

辞典の中の「手づくり」はその「手づくり」で、昔の「タダの手づくり」とは異質のようである。

新発売



サクラクレパス 太巻 48色・72色



- 感じた色を感じたままに表現するのに適した、色数の豊富な使いやすいクレパス。
- お子様から専門家の方まで、全ての方に喜んで安心して使っていただける、最高級の顔料を使用したクレパス。
- 高級木製ケース入り。

■ 配色表

銘	柄	略号	小売価格	品 No	包装単位	梱入数	JANコード
サクラクレパス太巻48色		VP48	4,500円	104006	3コ	15コ	4901881104008
サクラクレパス太巻72色		VP72	5,500円	104014	3コ	9コ	4901881104015



株式会社サクラクレパス 札幌営業所

札幌市中央区南4条西13丁目
☎064 TEL (563) 5161 (代)

あ と が き

委員総会は毎年、教育大前の北師会館で満開の桜を見ながら行われていました。教育大の移転にともない北師会館もなくなったので、今年はススキノに近い三川屋で全道各地から約70名の委員が集まって行われました。

大先輩の方々が一人去り、二人去りして連盟の世代交代に寂しさを感じます。そんな中で今年度は連盟結成40周年を迎えます。広報部の役割は、連盟の歩みをしっかり記録していくことだと思います。大変遅くなりましたが、85号をお届けいたします。

伊藤善彬(曙小) 稲實 順(八軒西) 植木則子(藻岩南) 島 昇二(札苗中) 岩間歳二(もみじ台中)